

第 13 回社会保障審議会統計分科会疾病、傷害及び死因分類専門委員会
H I M - T A G 報告

平成 24 年 11 月 16 日

記：中谷 純（東北大学）

現在、国際 H I M - T A G のネットミーティングは、一時不活化しています。

この間に、日本としては、H I M - T A G C h a i r Mark Musen 先生、R S G Chris Chute 先生 にお話しした上で、ジェノミクスに注目し、ジェノミクスのサブ構造をデザインし、XML 化した iCOS(ICD Omics Sub information model) β を作成し、現在は、東京医科歯科大学の iCOD (臨床オミックスデータベース) にある実データを基にした検証と、東北メディカル・メガバンク機構の情報基盤におけるデータ構造への応用を検討しています。これは、I S O 国際標準 G S V M L に基づいた構造で、コーザルプロパティに一切の改造なく組み込めるジェノミクスサブ構造です。

現在、WHO において、コンテンツモデル構造の見直しが行われておりますが、現在医療への応用の発展が著しい遺伝子解析等にも近い将来に ICD が対応可能とするために、ジェノミクス等の今後の分類に際して必要と思われるサブ構造を入れ込んでおくことが重要であると考えられる。

次に、全体としては、コンテンツモデル構造こそが今回残すべき重要な成果で、類型に必要なパラメータ構造はオプションも含めて検討すべきだという意見も進言いたしました。

また、必要なコンテンツは、I C D 1 0 に電子化類型のために必要なコンテンツを加えたものであり、それ以上は今回はオプションとしての扱いではないかという意見も進言いたしました。

以上